



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

五年生

十一月 第①週



学習を始める前に

①必ず用意してください

- ・国語のノートと漢字ノート
- ・筆記用具

②注意

- ・大事だと思われるところはノートに書いてください。
- ・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後のお知らせを見てください。
- ・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。
- ・必要があるときは、ビデオを止めた
り、もう一度ビデオを見たりして
ください。



先週の宿題から

1. 漢字

今日の授業で書いた漢字の練習をしましょう。

2. 音読 「敬語」を読みましょう。

3. 敬語の学習 どちらが正しいですか。

①ア 父は来週学校にいらつしやると申していました。
イ 父は来週学校にうかがうと申してました。

②ア 先生に「今度、私の家にいらつしやってください」と
お願いした。
イ 先生に「今度、私の家にいらつしやってください」と
お願いになった。

③ア お客様が、私のクラスの劇をらんご覧らんになった。
イ お客様が、私のクラスの劇をげき拝見はいけんすることになった。

漢字テスト①

読み方をノートに書きましょう。

〈新しい漢字〉

招待状

責任

新幹線

利益

承知

眼中



漢字テスト① 読み方をノートに書きましょう。

〈新しい漢字〉

答え合わせをしましょう。

招待状

しょうたいじょう

責任

せきにん

新幹線

しんかんせん

利益

りえき

承知

しょうち

眼中

がんちゅう



漢字テスト②

読み方をノートに書きましょう。

〈新しい読み方の漢字〉

留守

便り

塩分

招く

祝う

刷る

耕す

台風

幹



漢字テスト② 読み方をノートに書きましょう。

〈新しい読み方の漢字〉

答え合わせをしましょう。

留守
るす

便り
たより

塩分
えんぶん

招く
まねく

祝う
いわう

刷る
する

耕す
たがやす

台風
たいふう

幹
みき

漢字テスト③ 漢字で書きましよう。

〈新しい漢字〉

しようたいじよう

せきにん

しんかんせん

りえき

しようち

がんちゆう



漢字テスト③ 漢字で書きましょう。

〈新しい漢字〉

答え合わせをしましょう。

しょうたいじょう

招待状

せきにん

責任

しんかんせん

新幹線

りえき

利益

しょうち

承知

がんちゆう

眼中



漢字テスト④

漢字で書きましょう。

〈新しい読み方の漢字〉

るす

たより

えんぶん

まねく

いわう

する

たがやす

たいふう

みき

漢字テスト④ 漢字で書きましょう。

〈新しい読み方の漢字〉

答え合わせをしましょう。

るす

留守

たより

便り

えんぶん

塩分

まねく

招く

いわう

祝う

する

刷る

たがやす

耕す

たいふう

台風

みき

幹

「その人」と出会って

よねかわあきひこ
米川 明彦

今から二十数年前、ある集会に話を聞きに行つたときのことです。駅からの道で、わたしは、何度か見かけたことのあるわかい女の人が前を歩いていることに気がつきました。

あいさつをしようと思って、後ろから声をかけたのですが、「その人」は、ふり向きもしません。「あれ、どうしたのかな。」
と、今度はずきよりも大きな声で話しかけました。でも、反応がありません。わたしは走りよって、かたに軽く手をふれ、

「こんにちは」と言いました。その人は、びくつとしてふり返りました。

そのときの光景は今もわすれることができません。目を丸くして、体を少しちぢめて、手を耳の横でふりながら、その人は聞き取りにくい声で言ったのです。

「わたし、耳、聞こえません。」

わたしは、「えっ。」とおどろき、どうしたらいいか分からないまま、気まずい思いでならんで歩いていきました。

会場に着くと、その人はわたしとはなれて、別の列にすわりました。その席の前には、人が立って、手を動かしています。彼女は、この人の手の動きを見つめて、うなずいたり、ほほえんだりしています。後で分かったのですが、手を動かしていた人は、手話通訳者しゅわつやく者やぐとって、語り手の言葉を手と体を使って伝える人だったので

《読みかえの漢字》

光景コウ



集会在終わって、わたしは、なんとか話をする方法はないかと考えました。思いついて、メモに「ぼくは米川明彦よねかわあきひこといいます。よろしく。」と書いてわたししました。その人はそれを見て、「わたしの名前は金谷かなたにあけみです。よろしく。」と書いてくれました。話を紙に書いて伝える筆談です。筆談で内容は伝わりましたが、書く時間がかかるので、やり取りにもどかしさを感じました。

筆談の後、その人は、わたしに「名前」を表す手話を教えてくれました。わたしが最初に覚えた手話です。「名前」は、右手の親指と人さし指で輪を作り、それを左むねに当てて表します。これは、むねのバッジの形をもとにしています。

この出会いの後、わたしは、その人から手話を習い始めました。習っていくうちに、最初に覚えた「名前」を表す手話は、主に関西で使われるもので、関東では左の手のひらに右手の親指の腹はらを当てて表すことを知りました。こちらは、印かんの代わりに親指の腹をおす形です。このように、手話にも地方によって表し方のちがうものがあるのです。



さらに、手話は、手だけで話すものではないということも分かりました。表情や視線し、顔の向きなども重要な役わりを果たします。ですから、お面をかぶって手話をした場合と、顔を出してグローブをはめて手話をした場合とでは、後者のほうがよく伝わります。たとえ手話の形が少々不十分でも、目や口の動きや表情によって、大体的意味は分かるのです。

《読みかえの漢字》

関西

その人はまた、指文字というものも教えてくれました。指文字は、五十音の一音ずつを指で表すもので、地名や人名などを表すときによく使います。

習いたての手話と指文字。時には筆談を交えながら話し続けるうちに、三か月後には、話し言葉にたよらないで日常会話ができるようになりました。不器用で、工作などが苦手だったわたしの手が、ちやうがまうように動いて、言葉となって伝わってきます。相手の気持ちが分かるだけでなく、自分の気持ちを伝えることもできたのです。通じ合いたい、でも、無理かもしれないと思っていた人と、気持ちが通じ合えたうれしさを、今でもはつきりと覚えています。



その後、手話や指文字のほかに、口話といって、口の形を使って話をする方法や、空書といって、空間に文字や数字を書く方法も知りました。

わたしが手話というものを知った当時は、まだ手話という言葉さえも世間には知られていませんでした。手話が多くの人に知られるようになった今でも、手話や口話などは、特別な表現方法だ、自分の生活とは関係ないと思う人がいます。でも、決して特別な表現方法ではありません。

《読みかえの漢字》

不器用

例えば、おじいさんやおばあさんの中には、耳が聞こえにくくなっていく人もいます。そういう人と話をするときには、いつの間にか、身ぶりや手ぶりを交えたり、筆談したりしていることがあると思います。はっきりとした発音で、口の形にも気をつけながら話すことや、耳元で少し大きめの声を出して話すこともあるでしょう。

また、話し言葉とともに表情を使っていることもあるでしょう。外国から日本にやって来て間もない人と話すときや、自分が外国に行つて、言いたいことがうまく通じないような場合にも、表情豊かに話したり、身ぶり、手ぶりを交えたりする必要を特に感じると思っています。

伝えたいという強い気持ちさえあれば、だれでも相手や場面に応じて伝え方を工夫します。手話や口話なども、特別な方法ではなく、だれもが自然にしていることと同じなのです。

みなさんは、これからさまざまな人と出会っていくでしょう。そのときに、相手のことを理解したい、相手からも理解されたいという心を、ぜひ大切にしたいと思います。相手の立場になって考え、たがいに理解し合おうとすれば、さまざまな人と心を通わせることができるのだと、わたしは自分の経験から知りました。

わたしは、その人の言葉である手話を学び、そのことを通してたがいに理解し合うことができました。今、「その人」はわたしの妻となっています。

《新しい漢字》 妻つま



「その人」と出会って

米川 明彦

今から二十数年前、ある集會に話を聞きに行ったときのことです。駅からの道で、わたしは、何度か見かけたことのあるわかい女の人
が前を歩いていくことに気がつきました。
あいさつをしようと思って、後ろから声を
かけたのですが、「その人」は、ふり向き
もしません。「あれ、どうしたのかな。」
と思つて、今度はさつきよりも大きな声で
話しかけました。でも、**反応**がありません。
わたしは走りよつて、かたに軽く手をふれ、
「こんにちは」と言いました。そ
の人は、びくつとしてふり返りました。

そのときの**光景**は今もわすれることができません。目を丸くして、
体を少しちぢめて、手を耳の横でふりながら、その人は聞き取りにくい
声で言ったのです。

「わたし、耳、聞こえません。」

わたしは、「えっ。」とおどろき、どうしたらいいか分からないま
ま、**気まずい**思いでならんで歩いていきました。

会場に着くと、その人はわたしとはなれて、別の列にすわりまし
た。その席の前には、人が立つて、手を動かしています。彼女かのは、こ
の人の手の動きを見つめて、うなずいたり、ほほえんだりしています。
後で分かったのですが、手を動かしていた人は、手話通訳者しゅわやくといつて
語り手の言葉を**手と体を使って伝える**人だったのです。

《言葉の学習》

反応 手ごたえ。 ききめ。

光景 ようす。 目に見えるありさま・ようす。

気まずい たがいに気持ちがよくない。

*手話 耳の不自由な方々が会話をするとき用いるもの。「手で表
し、目で見えるもの」で、声の役割をするもの。

《読みかえの漢字》

光景
コウ



集会が終わって、わたしは、なんとか話をする方法はないかと考え

ました。思いついて、メモに「ぼくは米川明彦よねかわあきひこといいます。よろし

く。」と書いてわたしました。その人はそれを見て、「わたしの名前かなたに

は金谷あけみです。よろしく。」と書いてくれました。話を紙に書いて伝える筆談です。筆談で内容は伝わりましたが、書く時間がかかるので、やり取りにもどかしさを感じました。

筆談の後、その人は、わたしに「名前」を表す手話を教えてくれました。わたしが最初に覚えた手話です。「名前」は、右手の親指と人さし指で輪を作り、それを左むねに当てて表します。これは、むねのバッジの形をもとにしています。

この出会いの後、わたしは、その人から手話を習い始めました。

習っていくうちに、最初に覚えた「名前」を表す手話は、主に関西で使われるもので、関東では左の手のひらに右手の親指の腹はらを当てて表すことを知りました。こちらは、印かんの代わりに親指の腹をおす形です。このように、手話にも地方によって表し方のちがうものがあるのです。



さらに、手話は、手だけで話すものではないということも分かりました。表情や視線、顔の向きなども重要な役わりを果たします。ですから、お面をかぶって手話をした場合と、顔を出してグローブをはめて手話をした場合とでは、後者のほうがよく伝わります。たとえ手話の形が少々不十分でも、目や口の動きや表情によって、大体の意味は分かるのです。

《言葉の学習》

もどかしい はがゆい。じれったい。

表情 心で思っていることを、顔つきや身ぶり表すこと。また、その顔つきや身ぶり。

視線 目の向き

不十分 じゅうぶんでないさま。かんぜんでないさま。

*筆談 口で話す代わりに、互いに文字で書いて意思を伝え合うこと。

《読みかえの漢字》

その人はまた、指文字というものも教えてくれました。指文字は、五十音の一音ずつを指で表すもので、地名や人名などを表すときによく使います。

習いたての手話と指文字。時には筆談を交えながら話し続けるうちに、三か月後には、話し言葉にたよらないで日常会話ができるようになりました。**不器用**で、工作などが苦手だったわたしの手が、ちようがまうように動いて、言葉となって伝わってきます。相手の気持ちが分かるだけでなく、自分の気持ちを伝えることもできたのです。通じ合いたい、でも、無理かもしれないと思っていた人と、気持ちが通じ合えたらうれしさを、今でもはつきりと覚えています。

その後、手話や指文字のほかに、口話といって、口の形を使って話をする方法や、空書といって、**空間に文字や数字を書く方法**も知りました。

わたしが手話というものを知った当時は、まだ手話という言葉さえも世間には知られていませんでした。手話が多くの人に知られるようになった今でも、手話や口話などは、特別な表現方法だ、自分の生活とは関係ないと思う人がいます。でも、決して特別な表現方法ではありません。

《言葉の学習》

不器用

手先でするわざがへたなさま。

*口話

耳の不自由な人が、相手の口の動きを読み取り、表現したい言葉を口の形で表す会話の方法。

*空書

空中に指であたかも字を書くようにする行動

《読みかえの漢字》

不器用



例えば、おじいさんやおばあさんの中には、耳が聞こえにくくなっていく人もいます。そういう人と話をするときには、いつの間にか、身ぶりや手ぶりを交えたり、筆談したりしていることがあると思います。はっきりとした発音で、口の形にも気をつけながら話すことや、**耳元**で少し大きめの声を出して話すこともあるでしょう。

また、話し言葉とともに表情を使っていることもあるでしょう。外国から日本にやって来て**間もない**人と話すときや、自分が外国に行つて、言いたいことがうまく通じないような場合にも、表情豊かに話したり、身ぶり、手ぶりを交えたりする必要を特に感じると思っています。

伝えたいという強い気持ちさえあれば、だれでも相手や場面に応じて伝え方を工夫します。手話や口話なども、特別な方法ではなく、だれもが自然にしていることと同じなのです。

みなさんは、これからさまざまな人と出会っていくでしょう。そのときに、相手のことを理解したい、相手からも理解されたいという心を、ぜひ大切にしたいと思います。相手の立場になって考え、たがいに理解し合おうとすれば、さまざまな人と心を通わせることができるのだと、わたしは自分の経験から知りました。

わたしは、その人の言葉である手話を学び、そのことを通してたがいに理解し合うことができました。今。「その人」はわたしの妻となっています。

《言葉の学習》

耳元 耳のそば

間もなく ほどなく。 やがて。

《新しい漢字》
つま 妻

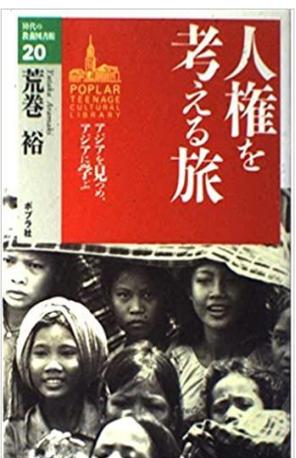


「『その人』と出会って」のように、筆者の経験にもとづいた感動やうったえが書かれた作品は、たくさんあります。豊富な情報を通して知らなかった世界にふれ、ものの見方や考え方を広げましょう。

「人権^{けん}を考える旅」

あらまき ゆたか
荒巻 裕

人権とは、人間が生まれながらにして等しく持っている権利のこと。取材中にであったアジアの人々から、さまざまな課題をつきつけられた体験を通して、筆者は、本当の意味での人権とはどういうことかを考えていく。



「かぎりなくやさしい花々」

ほしの とみひろ
星野 富弘

体育教師だった筆者は、仕事中のけがが原因で、首から下が動かせなくなる。入院中のある日、ペンを口にくわえて、退院する人への寄せ書きをした。その日を境に、字を書く練習を始め、やがて花の絵もかけるようになっていく。



《新しい漢字》

ホウフ
豊富

ひと
等しい

《読みかえの漢字》

シユ
取材

タイ
退院

さかい
境

「盲導犬 フロックスの思い出」

ふくざわ みわ
福沢 美和

筆者の目となり、十三年余りにわたって活やくしたフロックスのことは、永久にわすれることができない。人と犬とが強いきずなで結ばれ、共に歩んだ日々の思い出が書き連ねられている。



「ブータンの朝日に夢をのせて」

こぐれ まさお
小暮 正夫

自然環境のきびしいブータンの農家の人々が、農業によって自立するにはどうしたらいいのか。ブータンの伝統的な農業の方法の良さを残しながら、無理のない指導と協力を行った。農業技術者にしおかけいじ
西岡京治の物語。真の国際協力とは何かを改めて考えさせられる。



「笑顔の明日にむかって」

なかむら しょうこ
中村 翔子

「くららベーカリー」では、しょう害をもつ人も、もたない人もいっしょに働いている。阪神・淡路大震災でこわれた店も、大勢の人たちの協力で立て直すことができた。変化の富んだ日々の中での着実な営みの積み重ねが、今の仲間たちを支えている。

《新しい漢字》

《読みかえの漢字》

盲導犬

余る

永久

共

歩む

つら
連ねる

トウ
伝統的

と
富む

営む



新しい漢字

読み方をノートに書きましょう。

妻

豊富

退院

余る

伝統的

営む



新しい漢字

答え合わせをしましょう。

妻

つま

豊富

ほうふ

退院

たいいん

余る

あまる

伝統的

でんとうてき

営む

いとなむ

読みかえの漢字

コウケイ

光景

カンサイ

関西

ブキヨウ

不器用

ひと

等しい

シュザイ

取材

さかい

境

モウドウケン

盲導犬

エイキユウ

永久

とも

共

あゆ

歩む

つら

連ねる

と

富む



読みかえの漢字

読み方をノートに書きましよう。

光景

関西

不器用

等しい

取材

境

盲導犬

永久

共

歩む

連ねる

富む



読みかえの漢字

答え合わせをしましょう。

光景

こうけい

関西

かんさい

不器用

ぶきよう

等しい

ひとしい

取材

しゅざい

境

さかい

モウ
盲導犬

もうどうけん

永久

えいきゆう

共

とも

歩む

あゆむ

連ねる

つらねる

富む

とむ



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

五年生

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月		
		<p>新聞記事から 新聞記事の見出しの 違いについて考えた ことを発表しよう。</p>	<p>自分の意見を持つとう 自分の意見を発表し よう。話し手の意図 を聞き取ろう。</p>	<p>1年間の学習を通し て 先生の話を聞き、学 習を進めよう。</p>	<p>話す／聞く</p>
<p>こんな道があつたら 町の様子を観察し、 気が付いたことや 思ったことを書こう。</p>	<p>大陸は動く 前半と後半に分けて、 書いてあることを短 くまとめよう。</p>	<p>新聞記事から 新聞記事を短くまと めよう。(要約しよ う。)</p> <p>詩を楽しもう 見たり感じたりした ことをもとに、心の つぶやきを言葉にし よう。</p>	<p>やどかり探検隊 物語を読んで、感じ たことや考えたこと を書こう。</p> <p>記録しよう 心に残ったことを、 書留めよう。</p>	<p>新聞記事 記事の要約をし、記 事に対する自分の意 見を書こう。</p>	<p>書く</p>
<p>麦畑 情景を思いうかべな がら読もう。登場人 物の心情と情景が一 体のものでえがかれ ていることを読み取 ろう。</p>	<p>地図が見せる世界 筆者が最も言いたい ことは、どういうこ とだろう。</p> <p>大陸は動く 筆者はどんな考えで、 「大陸は動く」とい う題名をつけたのだ ろう。</p>	<p>詩を楽しもう 文語の詩を読もう。 「自分」の伝え方に ついて考えよう。</p>	<p>やどかり探検隊 主人公の気持ちかを考 え、自分と重ね合わ せて読もう。</p>	<p>新聞記事 記事の内容を読み取 ろう。</p>	<p>読む</p>
<p>仮名づかいの決まり 発音と違う書き方を する、言葉について 知ろう。</p>	<p>つなぎ言葉 つなぎ言葉の働きを 知り、つなぎ言葉を 使えるようになるう。</p>	<p>同じ音の漢字 同じ音を持つ漢字そ れぞれの意味と使い 方を知ろう。</p>			<p>言葉</p>

12月	11月	10月	9月	8月	
<p>目的を考えて話し合おう 目的にそった、有意義な話し合いにするための方法を知ろう。</p>					話す／聞く
<p>わらぐつの中の神 自分の身近な物について、それがどういうものかが読む人にわかるように書こう。</p>	<p>調査したことをまとめよう 調査したいことを決めて、調べたことを作文に書こう。</p>	<p>大造じいさんとガン 大造じいさんの気持ちの移り変わりをまとめよう。</p>	<p>身近な環境 身近な環境について調べ、わたしたちができることは何か書こう。</p>	<p>読書記録 読書記録の書き方を知り、自分の同署記録を書こう。 おみやげ 宇宙人の宿題 「宇宙人」「戦争」「現代文明」について思ったこと、考えたことを書こう。</p>	書く
<p>わらぐつの中の神様 おばあちゃんの思い出話と、その前後の現在の話を配した構成を理解しよう。</p>	<p>「その人」と出会って 筆者が手話を通して心を通わせた経験と、それにもとづいた感動を読み取ろう。</p>	<p>大造じいさんとガン 情景を思いうかべながら読もう。</p>	<p>一秒が一年をこわす わたしたちの周りで実際に起きている問題を考えよう。</p>	<p>おみやげ 宇宙人の宿題 宇宙人に目を向けた二つの作品を読み比べよう。</p>	読む
	<p>熟語を使って 熟語の読み方と意味を知ろう。</p>	<p>敬語 正しい敬語の使い方を知らう。日常生活で使っている敬語をまとめよう。</p>	<p>漢語と和語 漢語と和語について知り、意味の違いを調べよう。</p>	<p>漢字のなりたち 今わたしたち使っている漢字が、どのように作られたのか知ろう。</p>	言葉

	3月	2月	1月	
	朗読をしよう 一年間 学習 した物語の中で、 一番好きな作品の 朗読をしよう。			話す／聞く
	月夜のみみずく 作品全体から感じ たこと、場面ごと の印象を書こう。	リレー物語を作ろう もらった物語の続 きを書こう。 推敲をしよう 書いた作文を、よ り良い文章になる ように推敲しよう。	言葉と気持ち 自分の気持ちや意 図を相手に伝える 短い文を書こう。	書く
	月夜のみみずく 「わたし」が「と うさん」と森に 入った初めての経 験、雪の森の中で 見た世界を想像し よう。	詩の広場 うれしいときや悲 しいとき、わたし たちの心は何を感 じ、目にはどんな 風景がうつってい るのか、考えよう。	言葉と気持ち 三つの事例を通し て、筆者は何を うったえようとし たのか考えよう。	読む
五年生の漢字 五年生で習った漢 字の復習をしよう。		言葉の組み立て 複合語の意味、ど んなふうにするの か考えよう。	漢字の読み方と使い 方 言葉によって読み 方が変わる漢字を 知り、正しく使え るようになるよう。	言葉